



杏ちゃん全然
お酒進んで
ないじゃーん

あ…はい



ほらほら

PSの杏ちゃんがい即

いボ2P(差分)




そっちから
誘ってきて
ノリ悪くねえ〜？

アハハ
一応
未成年なんで

くそ…早く
コイツの情報
聞き出したい
けど隙が…

「あれー？どうしちやっただの杏ちゃん」
「……………」
ほんの数杯で杏の様子は明らかにおかしくなっていた
「もしもし！」
男が華奢な肩を強く揺さぶるがビクともしない

30分後



「目え覚まさないといタズラされちやうよろ」
「節くれ立った手が肩から胸、ふとももへ這い回り
いとも簡単に大切な部分へ触れてしまう」
「へへっ体温高いねえ……おっ？」
「恥丘の感触に浸っていると男の腕に細い指がかかる
……」
「慌てて顔を覗き込むが虚ろな視線は変わらない
「ただの反射かよ……おどかしやがって」

下着越しの突起をひとしきり撫で上げると
思い出したようにシャツもはだけさせていく
「はースタイルえぐ……クォーターだっけ？」
世の中不公平だねえ」
男は手慣れた様子で杏のあらゆる姿を撮影し始める
「あの量だし朝まで楽しませてもらおうかな」



「うお……」
あまりに美しい女性器に思わず感嘆の息が漏れる
「まーじかめっっちゃピンクじゃん……」
モデルも務めているという彼女の普段絶対にお目にかかれない部位から目が離せない



「ジュルッ！ジュルるるッ……」

男は誘惑に抗えず跪いて舌を這わせる

「はあ……れろっ……ジュルっ……ジュルルっ」

「……う……う……う……」

一日分の臭気がこもる内壁を入念になぞり上げ
湧き出る愛液を土手ごと吸い付いて飲み下す



「ふうふうっ」
これ以上我慢が効かずズブリー
とひと息に熱棒を突き立てる
「せまっ…コイツ…初めてか？」
常ならば面倒がるのだがこれほどの相手
遺伝子が歓喜し子宮口めがけてひとりでに腰が進む

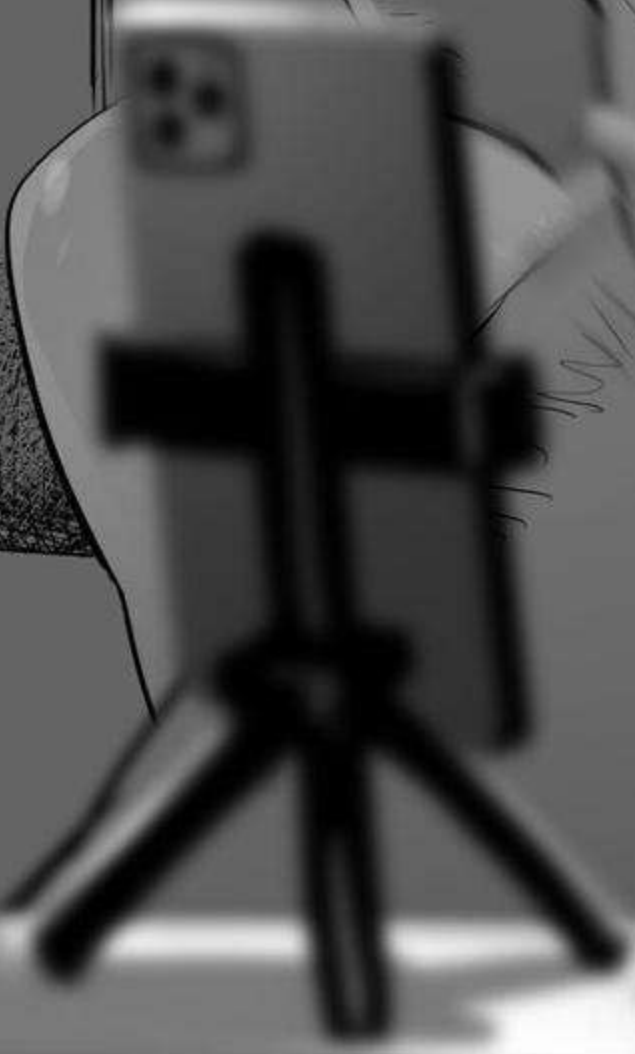


ハッ
ハッ
ハッ

はあっ
はあっ

何企んでんのか
知らねーが...ガキが
大人ナメてっから
こーゆう目に遭うんだっ

ハッ
ハッ
ハッ



ハッ
ハッ
ハッ

ん……りゅう……じ

ハッ

だっ出すぞ杏っ
くっ……おおおおっ

ハッ
ハッ
ハッ



ハッ
ハッ



おおっ

ぐっ...はおおおおおお

ヒク!!

ヒク!!

ヒク

ヒク

「はああ……出し過ぎて心臓止まるかと思ったわ」
1分ほども杏の最奥でしつこく精を吐き続け
男は名残惜し気に腰を引いた
「よーしこの後はホテルでハメまくろ〜ね〜」
軽口さえ届くこと無く怪盗少女は
望まぬ性交跡をレンズの前に晒し続けた



GameOver

プレイを再開しますか？





















